授業科目名・形態	基礎看護学実習　　実習	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	黒澤　繭子　　他	実務経験の有無	有	開講期	２年前期
科目ナンバリング	N4-2011npmht				

【授業の主題】

これまでに学んだ看護の基本的知識と技術を活用して実際に患者を受け持ち、日常生活の援助や診療に伴う援助の実際を理解する。根拠に基づいた看護、個別的な状況に応じた方法の選択・工夫の仕方、円滑な人間関係の重要性など基本的な看護過程の展開方法の実際について理解を深める。

【到達目標】

1. 患者の状況にあわせた看護技術を安全・安楽を考えて指導下のもとで行うことができる
2. 受持ち患者の看護過程を指導のもとで展開できる
3. 患者と円滑な人間関係を築くことができる
4. 看護職として基盤となる倫理観を培う
5. カンファレンス等を活用し、複数の事例に対するアセスメントや看護実践を検討し、自己の体験を通して学んだ看護について、考えを深めることができる

【授業計画・内容】

実習の詳細は実習要項に基づく

【授業実施方法】

臨地実習

【事前・事後学習】

これまで学んだ内容を基盤に、実際の患者に応用していくことになりますので、既習の知識以外も活用し柔軟に対応し学びを深めてください。また、安全・安楽な援助を行うために、看護技術の復習を行い、自信をもって援助できるように実習前に練習してください。

【主な関連する科目】

看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、看護過程論

【教科書等】

基礎看護学技術論・演習Ⅰ・Ⅱおよび看護過程論などで使用した教科書・資料

【参考文献】

必要時配布

【成績評価方法】

実習中の記録や技術、行動内容（80%）、実習への取り組み姿勢（20%）により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

総合病院での臨床看護の経験がある。看護の基礎として重要な知識や技術を実習し経験する上で、学生へ具体例な助言や指導を交えることで、学生が個別性のある看護について考え援助できるように促していきたい。

【学生へのメッセージ】

受持ち患者との関わりではコミュニケーションを大切にしてください。また、受持ち患者の顕在的・潜在的な能力が最大限に発揮されるように看護援助することを心がけてください。系統的に看護を実践するということを、体験を通して学ぶことができる機会となります。